

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04755

研究課題名(和文) 保育者養成校における「音楽を生み出す遊び」による実践的表現教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a practical expression education program by "Creating music through play" for a snursery-school teacher training school.

研究代表者

麓 洋介 (Fumoto, Yohsuke)

愛知教育大学・教育学部・講師

研究者番号：40735833

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：筆者らは「音楽を生み出す遊び」による、保育者養成における領域「表現」教育として学生の創造性を養うための実践的表現教育プログラムを開発した。

(1) 造形表現における描画技法、理念、作品の特徴を参考にして、“スパッタリング”“デカルコマニー”“フロッタージュ”を開発し、音楽的多様性と発展性の高さを明らかにした。(2) 「音楽を生み出す遊び」における、音楽的多様性と発展性および遊びの楽しさと自由を両立するための環境構成を明らかにした。(3) 領域「表現」授業における活用を想定した各90分間の授業プログラムを構成した。また、領域「表現」教育における指導のための視点について解説し、リーフレットにまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における音楽表現と造形表現の連携による音楽表現活動は、視覚と聴覚の融合・往還を図り、即興性の高い音楽創作を通して学生の創造性を育むことができる。また、「遊び」そのものの結果として自然に音楽が生み出される「音楽を生み出す遊び」の特徴は、従来の音楽表現活動と異なり、音楽を得意としない学生でも気軽に音楽の創作を楽しむことから、保育現場での実践を促し「遊び」を通じた幼児教育への応用が期待される。そして、領域「表現」教育において活用しやすいよう指導のための視点を解説したリーフレットの作成によって、広く関係者に成果を発表することができる。

研究成果の概要(英文)：Through this research, the authors have developed a practical expression education program to cultivate the creativity of students as an area "expression" education in the training of nursery teachers by "Creating music through play". The concrete results are as follows.

(1) The authors developed "Sputtering", "Decalcomania" and "Frottage" by referring to the drawing technique, philosophy, and characteristics of the work in modeling expression. Through a practical survey targeting students and music/music education specialists, we revealed its musical diversity and high development potential.(2) By conducting a survey targeting music specialists, we have clarified the environmental composition to achieve both musical diversity and development, and the fun and freedom of play of "Creating music through play". (3) Through a practical survey targeting students, each 90-minute lesson programs were designed for use in the area "expression" lesson.

研究分野：音楽 音楽表現 音楽表現教育

キーワード：実践的領域「表現」教育プログラム 感性・創造性・想像力 即興的音楽表現 描画技法の応用 遊び
音楽的多様性と発展性 遊びの楽しさと自由 環境構成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在、保育者には子どもの自由で創造的な遊びを援助することのできる資質が求められている(文部科学省,2008)。子どもの創造性は5~15歳頃にかけて大きく育つ一方で、一度低下するとそれ以後の学年において十分に伸ばすことができない(弓野,2001)。保育者は子どもの柔軟な感性に共感するとともに、創造的な遊びを促すための知識・手法を身に付ける必要がある。そのため保育者養成校においては、領域「表現」の教育を通して音楽・造形・身体・劇(言葉)など様々な表現分野から、またそれらの組み合わせにより学生の感性・創造性・想像力の育成が試みられている。しかし、特に音楽表現においては演奏や歌唱における表現力が重視され、学生の“創造性”を養うための教育法については未だ確立されていない。そこで、“音楽の創作”活動による実践的教育プログラムの開発が喫緊の課題となっている。

2. 研究の目的

本研究は、「音楽を生み出す遊び」の教材化による領域「表現」のための実践的教育プログラムの開発を目的とする。保育者養成校における音楽表現教育では、音楽の創作を通して学生の創造性を養う方法論は未だ確立されていない。筆者らは、聴覚と視覚におけるイメージの融合・往還によるサウンド・アートを応用した表現活動を考案し、「音楽を生み出す遊び」として発展させた。本研究では、描画技法の応用による「音楽を生み出す遊び」を新たに開発し、それらを“音楽の創作”および“遊び”の視点から再検討する。保育者養成における領域「表現」教育のための教材として再構成し、学生を対象とした試行実践による調査を通して「音楽を生み出す遊び」を用いた実践的表現教育プログラムを開発する。

3. 研究の方法

1年次では、造形表現における描画技法と現象および理念を参考として、新たな「音楽を生み出す遊び」を開発する。学生を対象とした実践を行い、“音楽の創作”の視点から検証する。2年次では、音楽・音楽教育専門家を対象とした調査を行い、学生による「音楽を生み出す遊び」の実践を“遊び”の視点から検証する。調査結果を元に発展性および柔軟性を備えた遊びとして修正する。3年次では、「音楽を生み出す遊び」を通して領域「表現」教育における学生の創造性を養うための教材として適切な遊びの環境構成を明らかにする。音楽専門家による様々な条件下での実践を行い、開発された3つの「音楽を生み出す遊び」について、それぞれ「人的環境」「物的環境」「空間的環境」「時間的環境」の視点から検証する。4年次では、調査結果をもとに「音楽を生み出す遊び」による領域「表現」教育プログラムとしてまとめるとともに、保育者養成における領域「表現」授業担当者を対象とした「音楽を生み出す遊び」の活用による授業展開のためのリーフレットおよび参考映像を作成する。

4. 研究成果

本研究を通して、筆者らは「音楽を生み出す遊び」による、保育者養成における領域「表現」教育として学生の創造性を養うための実践的表現教育プログラムを開発した。具体的な成果は以下の通りである。

- 1) 造形表現における描画技法および理念、作品の特徴を参考にして、素材に隠された“音”を見つける行為を通して音やリズムを生み出し、即興的音楽の創作へと繋げる「音楽

を生み出す遊び」「フロッタージュ」を開発した。また、既に開発された、模倣する行為を通してカノン風の即興的音楽の創作へと繋げる「音楽を生み出す遊び」「デカルコマニー」とともに、学生を対象とした実践調査を行なった。その結果、参加学生の多くが「音楽を生み出す遊び」について「楽しい」と答えた。学生たちは「音楽を生み出す遊び」を純粹に「遊び」として楽しみ、音楽表現を通して音だけでなく色・形・動き・空間など様々な感覚イメージを意識した。また、遊びから自然に音楽が生まれていると感じていたことも窺えた。そして、活動への“参加の自由”は「音楽を生み出す遊び」において(1)音楽の創作活動の実践をいっそう容易にした (2)音楽に多様な変化をもたらした ことの二つの効果をもたらしたと考えられる。これらによって、「音楽を生み出す遊び」は特別な音楽的技術や知識を必要としない活動であるとともに、音を自由に鳴らす“遊び”が自然と音楽になる「音楽を生み出す遊び」として、学生の創造性を育むことのできる表現活動であることが示された。また音楽的・造形的視点からは偶発的要素による即興性の高さが、遊びの視点からは自由度の高さが指摘された(表1)。

表1.参加学生への質問紙調査結果(5段階評定による平均値)

「音楽を生み出す遊び」	“デカルコマニー” 31名	“フロッタージュ” 37名
楽しかったか?	4.30	4.24
音や他の感覚イメージを意識したか?	4.13	4.08
どのようなイメージを意識したか?	色 5名(16.1%) 形 3名(9.7%) 音 24名(77.4%) 動き 18名(58.1%) 空間 21名(67.7%) 時間 9名(29.0%)	色 11名(29.0%) 形 12名(34.3%) 音 24名(75.0%) 動き 16名(50.0%) 空間 9名(28.1%) 時間 11名(34.4%)
音楽を生み出していると感じたか?	4.06	4.14

2) 保育者養成校における即興的な音楽の創作活動を通して、学生の創造性を育成するために必要な要件を明らかにすることを目的とした調査を行なった。学生が取り組みやすい活動として「遊び」に着目し、遊びのプロセスと音楽の創作プロセスを連動させた「遊びから音楽を生み出す活動」による教育実践として、領域「表現」授業において「音楽を生み出す遊び」「フロッタージュ」の活動を取り入れた授業を計画し、実施した。(1)即興的な音楽を創作する (2)表現の自由および選択の自由を保障する (3)音楽(遊び)の終わり方を学生に委ねる を共通ルールとして、各回の授業時において、様々な感覚イメージを元にした音楽の創作活動による発表を行った。「楽しい」「自然に音楽になる」「自由」な遊びを通して表現活動に対する学生の“安心感”を養うとともに、音楽の創作プロセスを段階的に指導することによって、自由で変化に富む音楽の創作を促すことに繋がった。

3) 音楽・音楽教育専門家5名を対象とした実践調査を行い、3つの「音楽を生み出す遊び」「スパッタリング」「デカルコマニー」「フロッタージュ」について、学生による実践

動画を元に音楽的視点から検討した。その結果、「音楽を生み出す遊び」は、遊びを通して音楽を生み出す - すなわち演奏 - 行為そのものを楽しむ音楽表現活動であり、楽器や素材の選択、人数や場所などの条件によって様々な音楽的要素が生まれ、「現代音楽」「サウンド・アート」「民族音楽」「フリー・ジャズ」など多様な音楽が生み出される可能性が示唆された（図 1-1, 1-2）。また、本研究における音楽の創作プロセスは、学生だけでなく音楽・音楽教育専門家にとっても魅力的な活動であることが特徴として示された（表 2）。その一方で、より音楽的な活動のための改善について、「空間の設定」「動きの制限」などの一定の制約や、音を意識して聴くためのルールや環境の設定などの環境構成の検討の必要性が課題として浮かび上がった。

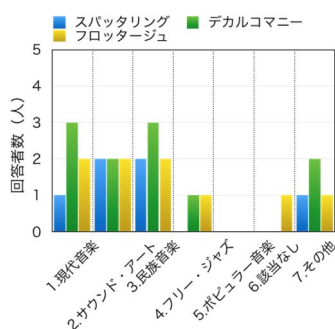


図 1-1. 音楽の特徴（複数回答）

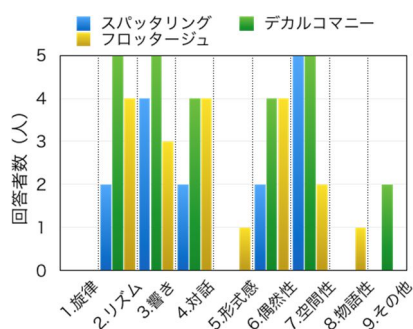


図 1-2. 音楽的要素（複数回答）

表 2. “面白さ”の5段階評定の平均

音楽を生み出す遊び	音楽作品として	演奏行為として
デカルコマニー	4.2	4.6
フロッターージュ	4.0	4.6
スパッタリング	3.8	4.4

4) 音楽・音楽教育専門家を対象とした調査によって、「音楽を生み出す遊び」における、音楽的多様性と発展性および遊びの楽しさと自由を両立するための環境構成を明らかにした（表 3）。「音楽を生み出す遊び」に適した環境構成として、(1) 遊びの中心となる“音を聴く”ための「残響」を特に意識し、周囲の残響や反響の特性に合わせて楽器（音具）の素材を選択する (2) じっくり遊ぶためには楽器（音具）の種類や数を少なく、逆に音の選択肢と音楽的多様性を広げるためにはより多くの楽器（音具）を準備する (3) 4~5 人までの少人数で行い、遊びをより深く楽しむため十分な時間を確保する として纏められた。一方で、領域「表現」授業での実践に際しては、「遊びをどのように終わらせるか」という視点から、個人の意思によって遊びを中断・終了できるルールを設けるなどの配慮や工夫が必要であることが課題として示唆された。

表 3. 「音楽を生み出す遊び」に適した環境構成

スパッタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・残響や反響がする屋内が適している ・楽器・音具としては木または金属の日用品や廃材、既製楽器が適している ・初めは1種類のみ、または2~3種類などで行い、慣れてきたらできるだけ多くの種類で1人につき1つずつ、または2~3個ずつの楽器（音具）を用意する ・人数は4~5人が最適であるが、1人から大人数まで可能 ・6~10分の時間で遊ぶのが良い
---------	--

デカルコマニー	<ul style="list-style-type: none"> ・残響のある屋内が適している ・金属や木、紙の既製楽器や廃材を4～5種類、または2～3種類で1人につき1つずつ、または2～3個ずつ、人数分用意する ・4～5人、または2～3人で2～3分、4～5分、6～10分の時間で遊ぶのが良い
フロッタージュ	<ul style="list-style-type: none"> ・反響のある屋内または屋外が適している ・金属や木、紙、プラスチック、ビニールなど様々な材質の日用品や廃材、既製楽器を6～10種類、またはできるだけ多くの種類、1人につき2～3個ずつ用意する ・1人、2～3人の少人数または11人以上による大人数で遊ぶのが良い ・時間は6～10分が最適であるが、それ以上の時間や「制限を設けない」ことも可能 ・遊びの終わり方に工夫が必要である

5) 学生を対象とした実践調査を通して、領域「表現」授業における活用を想定した90分間の授業プログラムを構成した。また、保育者養成校における領域「表現」授業担当者が実践しやすいよう、リーフレットおよび参考動画DVDを作成した(表4)。

表4.リーフレットの主な内容

「音楽を生み出す遊び」について	「音楽を生み出す遊び」の概要
「音楽を生み出す遊び」の遊び方	「音楽を生み出す遊び」「スパッターリング」「デカルコマニー」「フロッタージュ」の基本的な遊び方および遊びのポイントや応用のためのヒント、指導の際の視点や注意点などについての解説
研究の経緯	本研究の経緯についての説明
「音楽を生み出す遊び」における音楽表現と造形表現の関わり	造形表現における描画技法の概念・行為・現象と音楽表現における音楽的要素の関連性についての解説
「音楽を生み出す遊び」に適した環境構成	「音楽を生み出す遊び」「スパッターリング」「デカルコマニー」「フロッタージュ」に適した環境構成として、(1)空間 (2)楽器 (3)人数 (4)時間の視点から解説
「音楽を生み出す遊び」による授業実践のために	領域「表現」授業のための参考として、筆者らが学生を対象とした実践調査で行なった90分間のワークショップについての解説
付属DVD「音楽を生み出す遊び」実践映像についての解説	学生を対象とした実践の中から、参考DVDへの収録について同意を得た映像記録について、それぞれの実践における環境構成および遊びの展開と生み出された音楽についての解説
資料	本研究の関連する研究発表など

<引用・参考文献>

麓洋介、「音楽を生み出す遊び」の開発 - 造形表現を参考にして遊びから音楽を創作する試み - 、全国大学音楽教育学会紀要、第29号、2018、11 - 20

麓洋介、水谷誠孝、岡田暁子、「音楽を生み出す遊び」における音楽的多様性と発展性および遊びの楽しさと自由を両立するための環境構成について、保育文化研究、第10号、2020、99 - 112

水谷誠孝、麓洋介、造形表現を手がかりにした「音楽を生み出す遊び」の検討 - 造形表現のプロセスの視点から - 、教育美術、304号、2020、184 - 185

麓洋介、第12章 子どもと表現、太田光洋 編著『保育内容の理論と実践』、保育出版会、2018、245 - 266

麓洋介、水谷誠孝、岡田暁子、『空間に音で描く「音楽を生み出す遊び」の遊び方 - 領域「表現」教育のための即興的音楽表現活動 - 』

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 麓洋介・水谷誠孝・岡田暁子	4. 巻 10
2. 論文標題 「音楽を生み出す遊び」における音楽的多様性と発展性および遊びの楽しさと自由を両立するための環境構成について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育文化研究	6. 最初と最後の頁 99-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麓 洋介	4. 巻 29
2. 論文標題 「音楽を生み出す遊び」の開発 - 造形表現を参考にして遊びから音楽を創作する試み -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国大学音楽教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麓 洋介	4. 巻 4
2. 論文標題 遊びから音楽を生み出す活動を通して学生の創造性を養う試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保育文化研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 麓洋介・水谷誠孝・岡田暁子・友永良子
2. 発表標題 「音楽を生み出す遊び」における奏者間のコミュニケーションと 音楽的展開の関係について - 学生による実践の分析を通して -
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水谷誠孝・麓洋介
2. 発表標題 造形表現を手がかりにした「音楽を生み出す遊び」の検討 - 造形表現のプロセスの視点から -
3. 学会等名 日本美術教育学会第68回大会東京大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麓洋介・岡田暁子
2. 発表標題 即興演奏における奏者間のコミュニケーションが音楽に与える影響について
3. 学会等名 2019年度全国大学音楽教育学会中部学会前期研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麓洋介・水谷誠孝・岡田暁子・友永良子
2. 発表標題 「音楽を生み出す遊び」における環境構成についての検討 - 音楽の発展性と遊びの楽しさの両立を目的として -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麓洋介・水谷誠孝・岡田暁子
2. 発表標題 「音楽を生み出す遊び」における音楽的発展性についての検討 - 音楽家を対象としたアンケートおよびインタビュー調査を通して
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新山王政和・麓洋介・江田司・鈴木慎一郎・野田敦敬・江島徹郎
2. 発表標題 小学校教育におけるICT, プログラミング学習, アクティブ・ラーニングを問う - 真の学習者を育てるための議論の整理 -
3. 学会等名 日本音楽教育学会第48回愛知大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 麓洋介・水谷誠孝・岡田暁子・藤本逸子・藤原一子
2. 発表標題 「音楽を生み出す遊び」の開発 - フロッタージュを手掛かりとして
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田澤里喜・土橋久美子・山本直樹・村石理恵子・麓洋介・花輪充
2. 発表標題 学習者の創造性を涵養する授業プログラムの検討 - 授業実践の意義、内容、課題に着目して - part3
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 麓洋介
2. 発表標題 聴覚と他の感覚を結びつけ「遊び」から音楽を生み出す試み～学習者の創造性を涵養する授業プログラムとして～
3. 学会等名 第14回保育原論研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 麓洋介
2. 発表標題 自主シンポジウム「学生の創造性を涵養する授業プログラムの検討～授業実践の意義、内容、課題に着目して - part3」
3. 学会等名 第70回日本保育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水谷誠孝・麓洋介
2. 発表標題 造形技法の活用による音楽表現遊び - 学生の想像力を高める試み
3. 学会等名 第69回日本保育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 麓洋介
2. 発表標題 聴覚と他の感覚を結びつけ「遊び」から音楽を生み出す試み(2)～成績評価の方法と観点について
3. 学会等名 第15回保育原論研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 樋口一成(編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 264 (pp.214-215)
3. 書名 幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材	

1. 著者名 太田光洋・野中千都・田中ミサ・塩野谷祐子・上村明・戸川俊・関裕子・小山顕・田島大輔・麓洋介・中山由里・山本詩織	4. 発行年 2018年
2. 出版社 保育出版会	5. 総ページ数 326 (pp.245-266)
3. 書名 保育内容の理論と実践 - 保育実践を支える理論とその指導法 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『空間に音で描く「音楽を生み出す遊び」の遊び方 - 領域「表現」教育のための即興的音楽表現活動 - 』麓洋介・水谷誠孝・岡田暁子 (2020) 本研究成果をまとめ、広く保育者養成において活用されることを目的として、「音楽を生み出す遊び」の概要および授業展開と指導のための視点について解説したリーフレット、および参考動画を収めたDVDを制作した。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水谷 誠孝 (Nobutaka Mizutani) (80719089)	名古屋学芸大学・ヒューマンケア学部・講師 (33939)	
研究協力者	友永 良子 (Tomonaga Yoshiko)		
研究協力者	藤本 逸子 (Fujimoto Itsuko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤原 一子 (Fujiwara Kazuko)		
研究協力者	濱田 千枝 (Hamada Chie)		
研究協力者	山本 翔太 (Yamamoto Shota)		
連携研究者	岡田 暁子 (Okada Akiko) (40413265)	修文大学短期大学部・幼児教育学科・准教授 (43908)	